

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和元年 秋 第60号

あかり

A K A R I

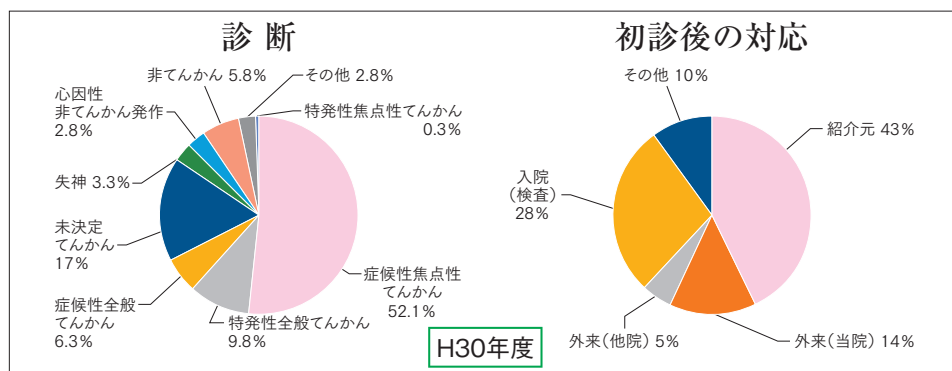
てんかん外来受診の紹介	1
治験管理室の紹介	2
てんかんの理解に向けて/高校生1日ナース体験	3
てんかん専門職セミナー(児童)/第38回 サマーショートボランティア	4
冬の疾患(風邪・インフルエンザなど)を防ぐための食品について	5
レジデント生活	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

てんかん外来受診の紹介

てんかんは、100人に1人がかかるといわれており、めずらしい病気ではありません。発症する年齢は乳幼児から高齢者まで、どの年齢層でも発症する可能性がある病気です。てんかんと聞いた時、いつ

起こるかわからない発作や将来のことなど、さまざまなことを不安に感じたかもしれません。正しい診断と適切な治療を受けければ、多くの場合に発作を抑える事ができま

す。自分の病気を知り、発作への対応や日常生活で気をつけることを学び、家族やいろいろな職種のサポートを受け治療していく事が日常生活の質を高めることに繋がります。



昨年、当院に初診で受診された方の68.5%はてんかん、てんかんが疑われるが診断できない方が17%、てんかん以外の疾患の方が14.5%でした。てんかん以外では、精神症状、発達障害、失神などでてんかん発作を鑑別する目的の方、熱性けいれんなどの非てんかん発作の方でした。

初診外来の、予約枠の時間は、小児は8:30、9:30。成人は8:30、9:30、10:30となっています。**受診の流れ**としては医師の問診⇒薬の血中濃度などの採血⇒脳波⇒MRI検査を行った後**今後の治療の方向性を確認**していきます。当日4～5時間程要します。正確な診断のためには長時間ビデオ脳波モニ

ター検査が必要になることもあります。24時間脳波検査を行うことになりますので入院が必要になります。

受診を迷っている。遠方で日帰り受診が難しい方は、**初診前相談**で相談してください。平日11:00～13:00に(病院代表番号)054-245-5446にお電話頂き、「初診前の相談希望」と申し付け下さい。また、てんかんとともに生きるための学習プログラムMOSES fa-mosesなどの入院もあります。外来・入院ともに必要時にソーシャルワーカーに社会福祉の相談や、学校・就職先との調整も行っています。
(地域医療連携係長 谷津 直美)

治験管理室の紹介

「治験」とは、製薬会社が開発した医薬品の候補が患者さまにとって有効かつ安全であるか確かめる試験のことです。当センターは中枢神経に作用する医薬品の治験を専門に行っています。例えば認知症治療薬のメモリー、リバスタッチ、新規抗てんかん薬のラミクタール、イーケプラ、フィコンパ、ビムパット、今年9月に承認となった新規パーキンソン病薬のエクフィナ、これらの医薬品は当センターを含めた国内外の病院で治験が行われ、有効性と安全性が証明されたことによって、日本全国で使用できるようになりました。現在もてんかん重積を対象とした頬粘膜投与ミダゾラム製剤(ブコラム)、部分てんかんを対

象としたブリバラセタム、パドセボニルなどの治験を実施中です。さらに、アルツハイマー病、進行性核上性麻痺の進行抑制を目的とした抗体療法の治験、さらに筋委縮性側索硬化症、ドラベ症候群、レノックスガストー症候群といった希少疾患の治験を行っています。

治験管理室のスタッフは、治験に参加される患者さんが不安なく治験を続けていただけるよう日々努力しています。患者さんのサポート以外にも治験審査委員会の運営、製薬企業や治験担当医師との打ち合わせ、治験のデータ管理など専門的な立場で治験に関わる方のサポートをしています。

(治験主任 山本 吉章)

》 てんかんの理解に向けて

院内認定看護師 石原 己緒光



こんにちは。てんかん院内認定看護師の石原己緒光です。我々、てんかん院内認定看護師は活動を始めてから、9年目になりました。市民公開講座や看護セミナーなどでの講演や啓蒙活動をしてきました。

近年は、活動の範囲は広がり、社会福祉協議会(主に作業所の方々)や特別支援学校へお話に行かせていただくことが出てきました。てんかんの理解や対応方法についてお話をさせていただくことが多いです。てんかん患者様と毎日、接している先生や指導者さんたちはことができるようにこれからも更なる勉強が必要かと考えています。

てんかんへの正しい理解が進むように今後も活動を続け、てんかん患者様がより過ごしやすい世の中になるように継続し、発展させていきたいと考えています。

高校生1日ナース体験

副看護部長 澤村 智子

当院では毎年高校生の1日ナース体験を受け入れています。

体験の目的は「病院での看護実務を通して看護の心を理解し、看護職への関心を深め、一人でも多くの高校生が将来看護の仕事を選択するよう実施する。」です。今年も看護・医療に興味を持つ8名の高校生がナース体験を行いました。

病院の説明を受け、白衣に着替え準備完了。みんな恥ずかしそうにしていたのですが、白衣を着ることで気持ちも切り替わったようでした。看護師と共にコミュニケーションをとったり、手浴などのケアを行いました。最初は緊張した面持ちでしたが、やはり看護に興

味を持つ高校生、次第に積極的に患者さんに話しかけられるようになっていまし

た。患者さんも可愛い看護師の姿に笑顔になっていました。

体験後の感想では、「大変な仕事ではあるけど、やりがいがある」「患者さんが笑顔になってくれるのが嬉しかった」「看護師になりたいという気持ちがもっと強くなった」などの意見が聞かれ、良い体験になったようでした。一人でも多くの方が看護の道を選択してくれることを願っています。

ご協力いただいた各職場の皆様、ありがとうございました。



てんかん専門職セミナー 児童

療育指導室 伊藤 良

当院では、夏休みシーズンに合わせて、地域の諸学校、保育・幼稚園、児童施設等の専門職を対象に、てんかん児に対する知識、発作を含む対応の仕方、家庭や教育場面の問題等について理解を深めるためのセミナーを開催しています。今回は8/1(木)に実施しました。定員50名に対して、2週間以上前には既に超過となり、多くの希望者は受講していただけませんでした。申し訳ありませんでした。

当日は、小児科医師による「てんかんの基本的知識」をはじめ、看護師、保育士、リハビリ、心理療法士が、各専門領域から解説を行いました。受講後アンケートによると、「映像等を使ったわかりやすい解説でした」等と、概ねご好評いただきました。

受講できなかったみなさんは、来年度も予定しますので、是非お早めにご応募ください！



第38回 サマーショートボランティア

医療福祉相談室
堀田 真子

サマーショートボランティアとは、静岡県ボランティア協会が毎年夏に主催しているボランティアです。夏休みを利用したボランティア活動体験プログラムで、静岡県内の社会福祉施設や社会教育施設でのボランティア活動の受入れをしており、当院も受け入れ先の1つとなっています。

今年は高校生・専門学校生22名が夏休みを利用して当院でボランティア活動をして下さいました。神経内科病棟、てんかん小児病棟、重症心身障がい児者の病棟で、4日間活動していただきました。活動内容として



は、車イスの清掃や窓の清掃等の環境整備、また食事介助等の患者

様との関わりで、ボランティアのみなさんは、一生懸命に取り組んでくださいました。

参加して下さった学生さんは、将来看護師を目指している方、教育関係・福祉関係の仕事を目指している方など様々で、活動後の感想では将来の進路選択の参考になったという意見も聞かれました。

サマーショートボランティアの活動を通して、将来の進路の選択に前向きに考えるきっかけとなったこと、また病気や障がいのある方のことを考えるきっかけになったことをとても嬉しく思います。

参加者のみなさんは初めての場所でとても緊張していたと思いますが、普段の生活では味わえない良い経験が出来たのではないかと思います。私たちスタッフも、とても良い刺激を受けました。参加して下さいました皆さん、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

冬の疾患(風邪・インフルエンザなど)を防ぐための食品について

栄養管理室 小林 敏郎



風邪やインフルエンザなどさまざまな病気には、手洗いやうがいなど、外部から病原菌が入ってこないように気を付けるのも一つの手ですが、もし病原菌が体内に入ってしまった時は、体内の免疫力を高めておかないと、病原菌に負けてしまいます。そこで、免疫力を高める栄養素・食品について紹介いたします。

・風邪を予防する栄養素

栄養素	役割	代表する食品
ビタミンA	鼻、口、喉の粘膜を丈夫にして細菌やウイルスの侵入を防ぐ	肉類(特にレバー)、うなぎ、いか、卵、緑黄色野菜、海藻類など
ビタミンC	体の抵抗力を付け、疲労回復を早める	イチゴ、オレンジ、レモン、キウイ、ピーマン、ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツなど
たんぱく質	ウイルスなどを攻撃する抗体のもとになる	肉類、魚介類、卵、大豆製品(豆腐・納豆・厚揚げ)、乳製品

・免疫力をアップさせる栄養素

免疫力をアップさせる栄養素は①ビタミンA・C・D・E ②亜鉛・セレン ③乳酸菌 ④たんぱく質 ⑤抗酸化物質 などがあげられます。そして、免疫力を上げるポイントは「腸」にあります。腸は栄養を吸収する働きに加え、免疫力の最前線であり、病気から身体を守るために大切にしたい部分です。そういった機能を持つ腸の免疫システムをオンにするには刺激が必要で、その刺激のもとになるのが乳酸菌です。現在では、乳製品各社より様々な乳酸菌入り商品が発売されています。寒い冬でも乳製品の摂取を心掛けましょう。

・免疫力を高める食品

体調(腸)が 良い 人	体調(腸)が 弱い 人
緑茶、唐辛子、生姜、ニラ、梅干し、シナモン、ニンニク、キノコ類、イチジク、ザクロ	大根、鶏肉、納豆、長芋、小松菜、茶そば、トマト、サツマイモ、ヨーグルト、ブルーベリー

冬の疾患(風邪・インフルエンザなど)を防ぐための食品紹介をしましたが、やはり1番はバランスよく摂取する事となります。いろんな食材と料理方法を駆使して、寒い冬を健康でお過ごし下さい。



● ● ● レジデント生活 ● ● ●



小児科レジデント 福岡 正隆

2018年4月から静岡てんかん・神経医療センターで小児科レジデントとして研修を開始し、1年半が過ぎました。当初は分からないことだらけでしたが、色々な先生方や、コメディカルの方々にお世話になりながら、慣れていくことが出来ました。てんかんセンターは、自分が想像していた以上に多くの患者さんが入院されており、色々な患者さんを担当させて頂き、とても

良い経験になっています。中でも、薬剤抵抗性の難治なてんかん患者さんの薬剤調整や外科治療適応の評価などを、上級医の先生と相談しながら、組み立てていき、うまくいった時には非常にやりがいを感じます。今後も、上級医の先生方の教えのもと、さらに色々なことを吸収し、患者さんに還元していけるよう、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。



脳神経内科レジデント 岡山 公宣

静岡に来てはや1年半が経とうとしています。この期間は大きさではなく自分の世界観を変えました。もともと自分は市中病院で働く脳神経内科医の一人で、てんかんという疾患とも決して無縁であったわけではありませんが、静岡に来て、いかに自分が無知であったかを思い知りました。その内容をここで書き尽くす紙面はありませんが、詳細な問診・診察に加え、長時間ビデオ脳波検査によって可能となる神経症候学の詳細な検討、脳波学の深み、最先端の神経生理検査・画像検査を駆使し、てんかん

という病態を通してみえてくる深淵な脳科学の一端に魅せられました。また患者様に対する多職種での包括的アプローチなど、当たり前といえばそれまでですが、それを実現可能な形で提供し続けているセンターの歴史的役割や、脳科学と経験知を融合したまさにてんかん学の体現のような多くの先生方から直接学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。今後は多くの患者様から学んだことを、地元にも還元できるよう、日々を大事に過ごしていきたいと思っています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

曜日 診察室	初 診					再 診				
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第 1 診察室							山 崎	川 口	山 崎	臼 井
第 2 診察室			久保田 英幹		久保田 英幹	久保田	池田仁 午前のみ		久保田	
第 3 診察室		今井 克美		臼井 直敬	今井 克美	今 井		荒 木		
第 4 診察室	日吉 俊雄			日吉 俊雄			鳥 取	日 吉		日 吉
第 5 診察室						池 田 仁	池 田 浩	池 田 浩	寺 田 清	寺 田 清
第 6 診察室						芳 村			芳 村	松 平
第 7 診察室							荒 木		美 根	山 口
第 8 診察室	高橋 幸利			高橋 幸利			西 田	高 橋		近 藤
第 9 診察室		寺田 清人	池田 仁			重 松			大 谷	大 谷
第12診察室	西田 拓司	松平 敬史 (第1,2,4,5週) 芳村 勝城 (第3週)	重松 秀夫	荒木 保清 (第1,3,5週) 松平 敬史 (第2,4週)	西田 拓司 (第1,3,5週) 山崎 悦子 (第2,4週)					

脳神経内科

■ 初診

診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	高嶋 浩嗣	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾 智一	小尾 智一	小尾 智一		小尾 智一
第11診察室	午前	杉浦 明 (再診あり)	杉浦			山崎/馬場國
	午後					尾内 康臣 (第4週)

特 殊 外 来

転倒予防外来	随時	小尾 智一
認知症疾患医療センター	月・水	小尾 智一
遺伝カウンセリング外来	適宜	高橋 幸利、小尾 智一
禁煙外来	随時	池田 仁
ねむけ外来	月	寺田 清人
包括的てんかん外科初診外来	火	寺田 清人

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580

FAX ■ 054-246-4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。
上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

広 報 誌 編 集 委 員 会

編集人 ■

寺田 清人 松下 剛 池ヶ谷和美
矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 葛城 裕幸
堀 友輔 高橋 輝 長田 英喜
大山 敏生

発行 ■ 令和元年10月21日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <https://shizuokamind.hosp.go.jp/>

E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)

その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,750円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

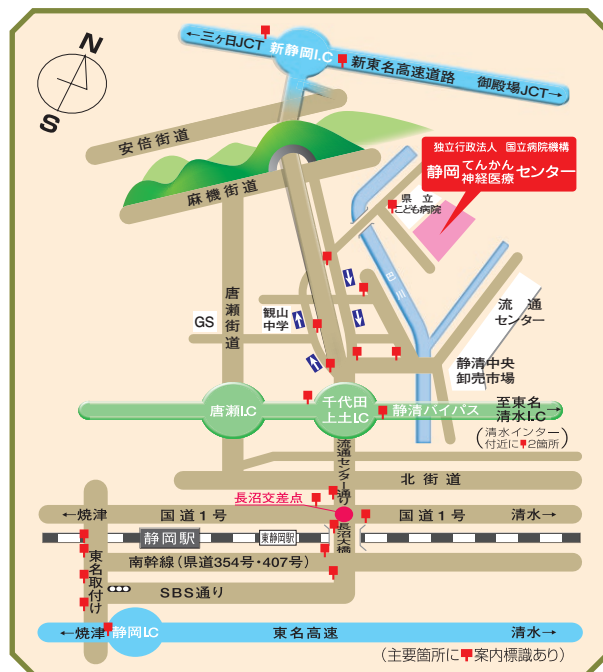
5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人370円、小児190円。
	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
東京方面から	● 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。
	● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。
	● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～

【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

●新 小児てんかん診療マニュアル 【診断と治療社、2019年】

多くの読者に支えられ改訂を重ねてきた本書。今回、2017年の新しいILAE てんかん発作分類提案に基づいた小児てんかん診療を可能とするために、ここに「新版」として生まれ変わりました。新規抗てんかん薬だけでなく、新分類で重視される病因別の特徴や心因性非てんかん発作、遺伝子検査、MRSといった新しい画像検査など、てんかん学の進歩をたくさん詰め込みました。

●プライマリ・ケアのための

新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)